

📷 11月のご案内

「ZOOMの画面共有機能を使って」

今月のWEB会議は11月9日（月）15時からを予定しておりますので、皆様奮ってご参加ください。

今回は、先月の映写会で使用した「ZOOMの画面共有機能」を引き続き使用しての意見交換会を行いたいと思います。

- ・撮影編集した映像を見せてもらう（または、見ってもらう）
- ・編集ソフトの操作方法を見せてもらう（または見ってもらう）
- ・WEBサイトを見ながら、機材の購入前情報交換

・封筒・ハガキなど営業送付物、機材リスト、機材配置図など各種フォーマットを見せてもらう

など、この共有機能は会員間で有益な情報を共有することができる、大変すぐれたツールです。

「このソフトはこんな便利に使えます」、「このソフトのこういうところがわからない」、「この機材はどう?」、「この機材を購入予定だけど、どう?」など具体的な意見交換をしたいと思いますので、質問・疑問をお持ちよりください。

👥 9・10月のご報告

「映写会」・「近況報告」

10月号会報が発行できませんでしたので、9月10月の活動報告になります。

9月は「映写会」でした。映像を見て感じたのは、各自の撮影スタイルを持ちながらも、さらに良いものにしたいとの改良を怠らない姿勢でした。

10月は「コロナ禍の影響で、例年と違った撮影編集」について活発な意見交換が行われました。三密を避けるために、運動会、発表会などのイベントでは、学年別開催、時間の間隔をあけた開催、別日開催、無観

客開催などがあったようです。

例年と違った日程や撮影方法に苦慮した会員が多くいたようです。この状態はまだまた続くと思われませんが、会員同士で助け合って乗り切っていきましょう。

以上敬称略

文責：脇田

✍️ 会員コラム

高橋さん「西湘のビデオ屋稼業」が続きます！（先月会報がありませんでしたので2号分のお届けになります）（文責各筆者）

西湘のビデオ屋稼業

2020.10月 高橋 昌一
(含むことあり：個人的、感覚的話し)

会としては久しぶりの、Zoomでは初の「映写会」を9月に行いました。PC画面越しの映像には、不慣れな再生操作、素材の音声とマイク越しの自分の声のバランスの調整等々、スムーズに進まないのもやや想定内。

目を引いた野上さんの「英語版草津紹介ビデオ」は、自治体に持ち込みアピールしたらいかが？という簡潔見やすさでした。高橋と言えばワントリガー各4分、2分、2分の計8分尺の手持ちによる連続映像を映写しました。手持ち長回しはここ半年くらい前から多用し始めた撮影法で、主に幼稚園や保育園で多用しています。それまでは「一人一人をしっかりと写す」を念頭に置いた撮影をしていたのですが、何だかそれでは物足りなくなり、以前、保護者のお母さんが言っておられた「ゴチャゴチャとした映像も観たい！」を思い出し、徐々にトライしたところツボにはまってしまったわけです。

この手持ち長回しは今年3月の卒園式関連の撮影でも行って見たのですが、結構喜ばれました。(カメラはソニーHXR-NX30Jで、たしか、手振れにレンズがゆらゆら動くActiveモードを初搭載した機種で、購入して7年目。小型で使い勝手も良く、そろそろ買い換えたいが現在は廃版。民生機には近いのがあるようですが)

手持ち撮影にあたって心掛けているのは、カメラを振り回さないのは当然の事、上下の揺れも極力抑えながら、移動はすり足気味で行うようにしています。それでもかなりのブレはありますが。

ちなみに長回しの最長には連続7分というのもあります。もちろん長ければ良いというわけではありません。長くなればなるほどカメラマンの明確な意図も重要になってきますが、機会がありましたらぜひ一度お試しを。中々新鮮な映像です。

さて、話変わってEDIUS X(テ)Proが正式に出ましたね。ウェブサイトでちょこっとあたってみました、思わず食いついてしまったのがボーナスコンテンツプラグイン(フリーダウンロード)にあるAcon Digital EDIUS Editions(コンプレッサー、ノイズリダクション、リバーブリダクション、リミッター)です。特にノイズリダクションには興味津々。(えっ？そこなの！なんて言わないでくださいね。落ち着いたら他も順々にあたってみますゆえ)

実際、ホール以外での撮影では音ノイズ処理作業を行ったほうが良いケースも結構あって、その手間にわずらわしさを感じていました。(EDIUSの音声エフェクト以外では、道すがらAudacityというフリーソフトと出会って、時折り使用しています)

それがXではノイズリダクション内に様々なプリセットが用意されていて、処理も簡便そう。

詳しく知りたい方は

<https://www.youtube.com/watch?v=wmTAy4-69tk&feature=youtu.be&t=63>

を見れば修正の違いがはっきり。30分弱と長目のプレゼンテーションですが、ヘッドフォンでビフォーアフター音を聞き比べていると「こんなにも簡単に修正出来ちゃうの？」が率直な感想でした。

西湘のビデオ屋稼業

2020.11月 高橋 昌一
(含むことあり：個人的、感覚的話し)

●運動会撮影もようやく終わりました。

撮影前、お客さんから入ってくる連絡には、コロナの影響による日程や内容変更の二転三転も少なくない。中には2回に分けて実施するところもあり、当方、総練習・本番・予備日を含めての調整には、かなりの混乱状態になってしまいました。もちろんお客さん自身の苦慮ぶりも伝わってきていました。

また、気にかかってくる天気予報のチェックも外せず、3種類の予報アプリを見比べている始末。こんなに頻繁に天気予報を覗いたのはおそらく人生初めての経験。やはりお客さんも同じ状況だったようです。

一方、人繰り変更も大変でした。当然、例年とは同じ状態での撮影は出来ず、人数減になる現場もありましたが、お客さんとビズネット仲間の協力と理解を得ながら、「どう工夫しようかな」といった案配でした。でも何とかしなければと、ひそかに開き直っている自分もいたことは確かでした。今思えばその考え方は何となくプラスに作用したと感じています。

まあ、もっとも昔から、自分の人生自体もしかりのようですけど。

●人によって撮影手法は、それぞれ進化を積み重ねながらも、いくつかあることでしよう。お客さんとのそれなりの濃度の時間の共有も、さらに磨きをかけるきっかけの一つにもなっていると思っています。

それでも、撮影に失敗したときは、唇をかんで悔しがり自分を責めたりするも、その一方「やってしまったことは仕方ない」と、照れ笑いを浮かべながら平常心を装ったときもありました。いわゆる「逃げ」ですね。

経験から言うとやっぱり「逃げ」は足しにならなかった。思い出したくもない失敗の理由を明確にしながら、キツイけれども前進したほうがとってもいい。前進でも逃げでも、どうせ同じ月日が流れて行くのだから、転んだときはただで起きちゃ損、と今ではよくわかります。